

2024年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園 えいふく町

保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに
自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

保育目標



共感性

自分の気持ちを大切にし
他者の気持ちも大切にする
こども



内発性

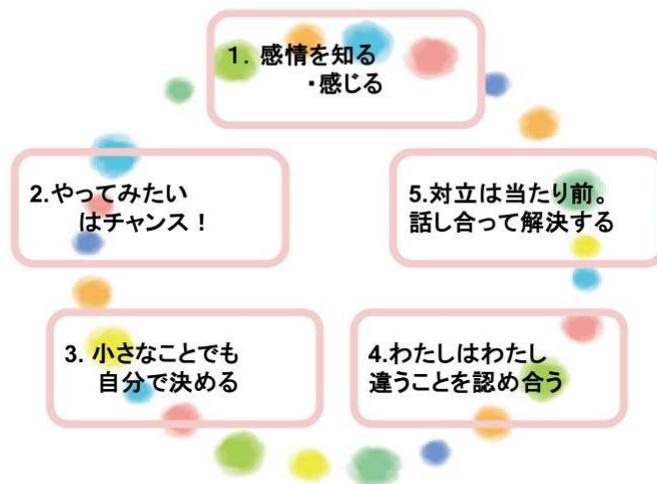
自らの内なる声 را聞き
主体的に動くこども



創造性

自由に考え
創造するこども

シチズンシップ保育5つの基本



1,活動のテーマ

<テーマ>

自然（日々の気候、戸外活動での発見。虫、木の実、雲の形、風の体感）

<テーマの設定理由>

戸外に出ると、自然の事象によく気がつく姿が度々見られる。発見したものから遊びがどんどん発展していく様子があるため、テーマに設定した。

2,活動スケジュール

- ・ 戸外に出て外気に触れ、季節の気候（暑い、寒い、気持ちいい等）を味わう
- ・ 戸外ならではの発見をし、楽しむ
- ・ 動植物に触れることで興味・関心を深める
- ・ 自然事象に気づき、友だちや保育者と共有する

【実践記録】

日付	2024/10/16(水)
「問い」	保育者のひと声が呼び水となって、こどもの興味関心が自然に向けられるよう配慮する。 匂い、体感、温度、などを尋ねてみる。
環境のデザイン	咲いている花の匂い 吹く風の心地よさ 聞こえる風の声 感じる色々な感触
探究活動	地面の草を触ったり地面に寝転んだりして草の匂いや感触を感じる 木の幹のザラザラ感を楽しみ、大木の大きさに圧倒される。 咲いている花を見つけて保育者に教える 風を受け口を開け、風の心地よさを楽しむ
活動の様子	 
振り返り	保育者自ら自然物や自然事象に関心を寄せることによって、こどもも目を向ける姿が多く見られた。 また、押しつけではないさりげない声かけで、よりスムーズに活動へ取り入れられるように感じた。 声をかけた時点で何も興味を示さないこどもであっても、思い出したように風を食べてみたり、友だちが楽しそうな様子に引き寄せられ真似をする姿も見られた。 こどもにとって自然物や自然事象は面白い玩具の一種であるように捉えられる。 こどもの自主性を見守りながらも、自然にフォーカスした活動を心がけ、心の発育に大いに役立ったのではないかと感じた。

日付	2024/12/10(火)
「問い」	散歩先を選択してもらおう。 ここで遊びたい、という気持ちを尊重したい。 どこにいこうか、と声をかけてみる。
環境のデザイン	散歩先の特徴に合わせてこどもの興味を探り、存分に楽しめるよう配慮（危険物の排除など）していく。 季節的に落ち葉が地面にたまっているので活用していく。
探究活動	保育者が少量の落ち葉を上から散らしてみると、すぐにこどもたちが駆け寄ってくる。 保育者の真似をして落ち葉を降らす子もいれば、落ち葉の山を作ったり、その山の中に入り込んだり、バケツに入れてままごとを始めたり、それぞれの楽しみ方で落ち葉に触れていた。 また、友だち同士で落ち葉をかけあったり、協力して山を作る様子もあり、楽しみを共有しあっているようである。
活動の様子	
振り返り	多量の落ち葉というのは、こどもにとってかなり魅力的なアイテムであるといえる。 保育者はいかにこどもからの遊びを引き出すか、に重点をおいて関わっていった。 危険がないよう見守りながらも、なるべく遊びの邪魔をしないよう気をつけた。 危険というのは落ち葉の中には石やゴミが含まれることにより目や口に入ることである。 楽しい気持ちを尊重するためにも、見守りをしっかりしていく必要性を感じた。